

とを述べた。これは、一般にゾンデによって計測する場合、特に計測器の保温を要する場合に關して、実際に設計するにあたって有用な資料を提供したものといえるが、実際的にも拡散率について検証されることが望ましいと思われる。

次に、小林、経塚（気研）「ラジオゾンデ用電位計の試作経過」小林、外山（気研）「ラジオゾンデ用露点（霜点）湿度計の試作経過について」では、地球観測年の World Interval に使用予定のラジオゾンデの構成、それにより測定される気象要素として選定されたところの大気電場、大気電気伝導度を測るための真空管電位計の設計要領、留意点、作り方、遠隔指示方式が示され、安価に、軽量にできることが示された。また従来気象要素の一つとして選ばれている湿度の計測は他の計測に比しておこなわれているのであるが、これの対策として選ばれた露点湿度計に就いては、誤差の起因する点に就いて、細部にわたって検討した点と、今後の問題点としての露点鏡面の冷却方式に關しての見通しが示されたが、下部成層圏迄の湿度の計測がなされる日も近いことであろう。湿度にしても、大気電場、大気電気伝導度にしても、これ等は、気象要素として温度、気圧に並んで大気の性質を知る手がかりとして重要なものであり、従来困難視されて来た問題であるだけに、その研究成果のまとまることが切望される。また真空管式電位計の大気オゾンの計測へ

の応用、地上における静電気方面の応用も期待される。

地上測器の關係では、先ず清水（気象庁測器課）木村（気研）「気圧の測定に及ぼす風の影響」があげられるが、すでに以前から強風時の気圧測定の精度に關する問題として懸案になっていた問題で、ここでは気圧計室の模型を作って、風洞実験により室内の気圧の偏差を求める実験を、建物の形、窓の位置、風向風速等の種々の状況下で行ない、適当な補正量を求める試みを行なったが、結果として非常に困難であることが示されたが、實際上この種の問題は、大事な事柄であるので、今後も検討が進められることが期待された。

以上、今回の報告会、学会の気象測器に關連のある演題をきき、当時直観的にうけとった雑感と、個々の演題の問題点の簡単な紹介をのべたが、筆者の不勉強のため焦点のずれた紹介となっていたら許して頂きたい。総括して、従来ややもすれば、気象計器の取得した物理量の伝送機構の改良研究に力点を置かれ勝ちであったのであるが、気象計器の要素の気象諸元の物理量の取り上げ方そのものの吟味の研究及び開拓されない分野への進出が年毎に活気を呈してきていることは、一つの最近の特色であり、遠隔指示による測器の近代化と並んで測器の研究の在り方に一つの問題を投げていると少なくともわが国においてははいえるのではないだろうか。

学 界 消 息

日本気象学会創立75周年記念事業資金寄附者名簿(3)

11月12日から12月3日までに御寄附を頂いた方々（到着順）は次のとおりです。なお、これをもって申込受領証に代えさせていただきます。もし掲載漏れの方がございましたら至急御連絡下さい。

43. 橋本直之	11口
44. 羽生寿郎	11口
45. 宇田道隆	14口
46. 一木茂	6口
47. 三沢甚一	12口
48. 増井次夫	12口
49. 島山久尙	20口
50. 田口八雲	6口
51. 岡野陸夫	6口
52. 野本政行	6口
53. 内藤亘	6口
54. 沢田竜吉	11口
55. 山下理三郎	6口
小計	127口
総計	610口

地方理事臨時改選の結果

10月15日付をもって北海道地区の地方理事坂岸昇吉氏が気象庁を辞任して、日本原子力研究所に勤務されることになり、今回臨時改選を行い、本日開票の結果次の通りとなりました。

北海道地区	投票総数	71票
当選	山岡保	68票
次点	なし	

昭和31年12月1日

日本気象学会 第9期選挙管理委員会

75周年記念論文募集について

天気第3巻第8号にとじ込みの葉書で、応募をお願いしましたが、この葉書で申込みできなかった方の論文の投稿も受付けますから、どうぞふって御応募下さい。

ただし締切は昭和32年3月一杯です。